

来たとき  
よりも  
キレイに!

世界に示す、クリーンジャパン



KEEP EVERYTHING  
MORE BEAUTIFUL  
THAN IT WAS.

Show the world, CLEAN JAPAN!

令和元年度

# JOCスポーツ環境専門部会 活動報告書

JOC SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION REPORT 2019



**JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE**  
SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION

公益財団法人 日本オリンピック委員会  
スポーツ環境専門部会





# (公財)日本レスリング協会

Japan Wrestling Federation

## ●平成31年度・第33回ジュニアクイーンズカップ選手権大会

会期：2019年4月2日(火)～3日(水) 会場：東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館 参加：219団体618名



試合風景



会場に環境ポスターを掲示

## ●2019年全国中学生選手権大会

会期：2019年6月8日(土)～9日(日)  
会場：茨城県・アダストリアみとアリーナ



会場に環境ポスターを掲示

## ●2019年世界選手権代表選考プレーオフ

会期：2019年7月6日(土)  
会場：埼玉県・和光市総合体育館



女子57kg級 伊調馨選手 vs 川井梨紗子選手

## ●第36回全国少年少女レスリング選手権大会

会期：2019年7月26日(金)～28日(日) 会場：和歌山県・和歌山ビッグホエール 参加：209クラブ1244名



湯元健一氏の北京オリンピックの銀メダルセレモニー



「マイボトルDAY」を実施。開会式で各々がマイボトルを掲げアピール



## (公財) 日本レスリング協会

### 1. 実施概要

- JOC 環境ポスターの特大バナーの掲揚
- 大会パンフレットへの「来たときよりキレイに」をページ掲載
- 会場内の分別化の啓発活動・実践活動（大会スタッフの弁当のカラ箱の分別、ペットボトルのキャップ回収）
- その他、ごみの持ち帰り、マイボトルの推奨
- 環境教育として、指導者講習会とエリートキャンプで座学講習の開催
- エリートキャンプ参加者へ環境問題についてのレポート提出を義務付ける
- 環境標語を募集し、啓発活動を図る

### 2. 活動内容

	大会名	バナー掲載	ポスター掲載	プログラム掲載	館内放送
4月	ジュニアクイーンズカップ選手権大会	○	○	○	○
4月	JOC 杯全日本ジュニア選手権大会	○	○	○	○
6月	明治杯・全日本選抜選手権大会	○	○	○	○
6月	全国中学選手権大会	○	○	○	○
7月	全国社会人選手権大会	○	○	○	○
10月	全日本女子オープン選手権大会	○	○	○	○
10月	全国社会人オープン選手権大会	○	○	○	○
11月	全国中学選抜選手権大会	○	○	○	○
12月	天皇杯・全日本選手権大会	○	○	○	○
1月	全日本マスターズ選手権大会	○	○	○	○
2月	全国少年少女選抜選手権大会	○	○	○	○
※	8ブロック少年少女選手権大会	○	○	○	

※この他、少年少女のローカル大会のプログラム掲載、キャンプのしおりなどに掲載している。

7月開催の第36回全国少年少女選手権大会において「スポーツ環境標語コンテスト」と「マイボトルDAY」を実施した。応募総数385作品の中から3作品を選出し、決勝戦の前に表彰を行うとともに、受賞者へ記念トロフィーを贈った。受賞作品は連盟のスポーツ環境標語として、ホームページ、大会やキャンプといった機会を通じ1年間使用することとした。

#### ◎スポーツ環境標語コンテスト受賞作品

【会長賞】刈谷レスリングクラブ（愛知県）

小さな行動、大きな成果、続けよう自然豊かな地球のために

【最優秀賞】ゴールドキッズ（東京都）

スポーツは日々の努力が実を結ぶ、環境は日々の努力で地球を救う

【優秀賞】常滑レスリングクラブ（愛知県）

マイボトル、使って海を守りたい



また本年度は、新たな試みとしてエリートキャンプの参加者に、その条件として「環境についてのレポート提出」を義務付けた。お題は「海にあふれるプラスチックごみ」についてである。参加者は保護者と共にネットで調べた内容、学校で学んだ内容等を基に、しっかりと書いてきてくれた。キャンプ期間中にレポートについて紹介する程度で、ディスカッションを行いまとめることができたが良かったが、時間の都合で出来なかったのは残念だった。しかし、環境について親と子の共通の話題の中で選手は選手なりに考え行動することにより、より一層の実践活動が周りの人々に伝播しながら広がっていくのではないかと感じた。

その他、全国大会の開会式時に「手に持ったマイボトルを掲げた集合写真」を撮影しホームページなどでアピールすることができた。この写真を報告書などに利用し、マイボトルの実践活動に繋がっていくことが成果としてあげられる。

#### 4. 全体的な成果と今後の課題

新型コロナウイルス問題でオリンピックの延期、傘下団体の大会イベントの中止など、先行きが見えない状況であるが、これまで以上に実践活動を行うための啓発活動を模索し、継続していくようにスポーツ環境委員会内で検討していきたい。

#### 5. JOC スポーツ環境専門部会員 鎌賀 秀夫

今年は東京オリンピック・パラリンピックを迎え、新設された会場、改装された会場と、競技もさることながら、環境に配慮された施設づくりになっているかなど、見るのを非常に楽しみにしていたが、新型コロナウイルス問題で開催が一年延期となった。

JOC 環境専門部会として、開催までの一年をかけて選手団、選手、役員、ボランティア、そして各国・地域から観戦と観光のために来日する人々に、日本の競技団体のこれまでの環境活動の取組や、オリンピックのため新設、リニューアルされた「施設の環境に考慮・配慮したハードづくり」の紹介など、チラシ、ブースの展開、施設内でのQRコード等々、地球温暖化、自然環境の破壊の抑制、住みやすい地球の環境づくりを実践するためのモチベーションづくりに、何らかの方法で周知できないか。そんなことを考え活動していきたい。